
観光みらいプロジェクト 中期推進計画

【令和4年度～6年度】



一般社団法人白山市観光連盟

令和4年8月18日 発行

I 白山市観光の現状と課題

【現状分析】…………… P 2

【課題の抽出】…………… P 3

【資源の再整理】…………… P 4

II 白山市観光連盟 観光みらいプロジェクト 目標と方針

【全体方針】…………… P 5

【重点方針】…………… P 5～9

【計画目標】…………… P 10

【行動指針】…………… P10

I 白山市観光の現状と課題

【現状分析】

白山市の現状を、「強み」「弱み」「機会」「脅威」という4つの視点に分けて、白山市観光連盟「観光みらいプロジェクト部会」メンバーそれぞれに意見を出し合い、グループワークによる分析を行いました。

SWOT（スウォット）分析

プラス要因

【強み】Strength

- ▶ 白山（自然、食、信仰、文化）という象徴を保有
- ▶ コロナ禍で
 - ・自然・アウトドア志向が定着化
 - ・のんびり型・癒し型・祈り型の旅志向へ
 - ・マイクロツーリズムの重要性を再認識
- ▶ 暮らしやすさの評価が常に全国上位
- ▶ 食や伝統工芸においても固有の強み
- ▶ 白山手取川ジオパークが世界ジオパークに日本推薦

内
部
環
境

マイナス要因

【弱み】Weakness

- ▶ 観光コンテンツのラインナップ不足
- ▶ マーケット層の絞り込みがやや弱く全方位型
- ▶ 新たなツーリズムへの取り組みの遅れ
- ▶ 稼げるしくみ作りのための組織確立がまだ弱い
- ▶ ガイディングやホスピタリティ向上の施策不足
- ▶ 観光リーダー・観光プロデューサーの不足
- ▶ デジタル活用・観光DXなど流通対応の遅れ

【機会】Opportunity

- ▶ コロナ収束による旅行機運の高まり
- ▶ 国策による地域支援が多数発出
- ▶ 北陸新幹線の石川県内全線開通・敦賀延伸
- ▶ 訪日インバウンド旅行の復活
- ▶ 大阪万博に向けた景気全体の高揚感
- ▶ SDGsやダイバーシティに再注目
- ▶ コロナ前と比した旅の目的感・価値観の変化

外
部
環
境

【脅威】Threat

- ▶ 新たな変異株によるコロナ禍の長期化
- ▶ 観光が平和の上に成り立つ産業であること
- ▶ 戦乱や東西対立による世界経済の悪化
- ▶ コロナ禍で離職者や生活困窮者が増加
- ▶ 旅行を取り巻く業態や販路などが大きく転換
- ▶ SDGsの非推進地域がマイノリティに
- ▶ コロナ前と比した旅の目的感・価値観の変化

▼4つの項目を組み合わせ、「強み」は伸ばし、「弱み」は克服、「機会」を生かし、「脅威」の解決策を打ち出すことによって、戦略（みらいビジョン）を立てていくことができる。

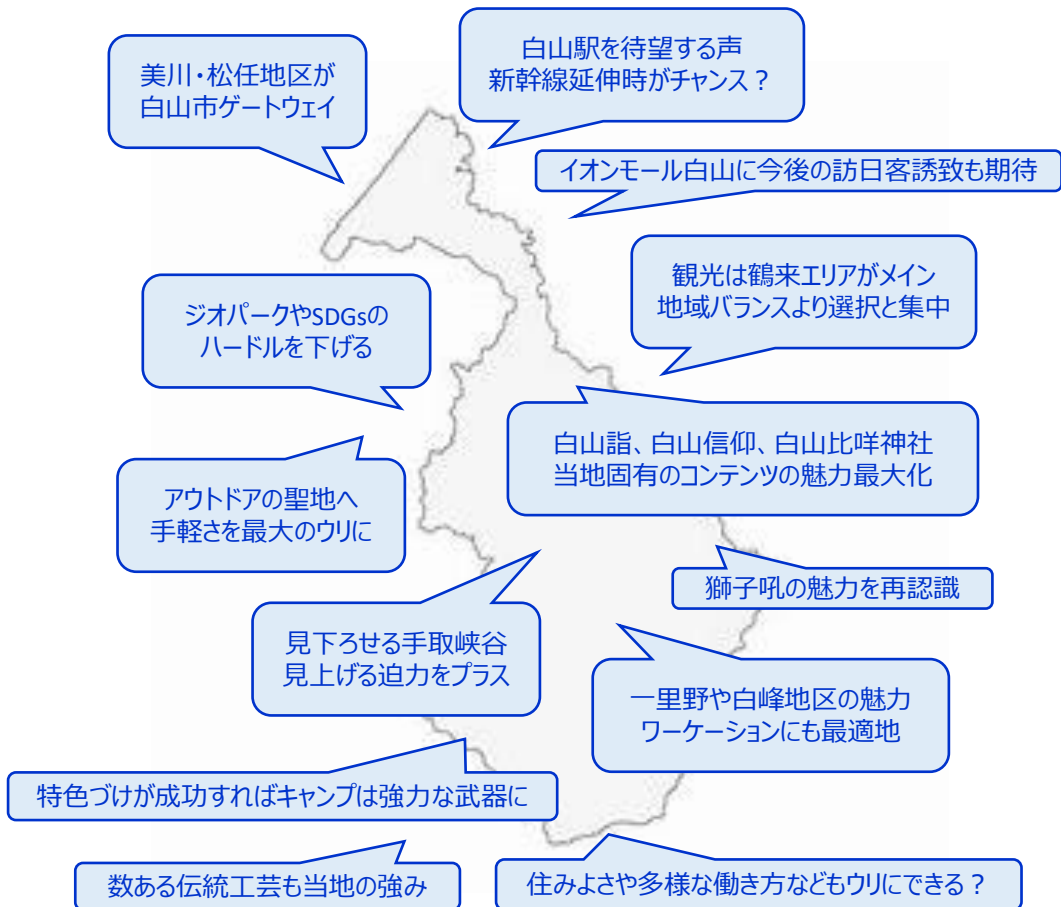
I 白山市観光の現状と課題

【課題の抽出】

＜強みを生かしていくための課題＝基本コンセプト＞

- ▶ 「白山」「手取川」の認知度の検証やネームバリュー向上
- ▶ さまざまな自然を生かしたアウトドアニーズに応えるメニューの拡充
- ▶ ジオパーク、SDGs＝誰もが楽しめる難しくない学びの要素
- ▶ ターゲットの絞り込み（ねらいは定めるが結果として「誰もが」はOK）

その他の課題

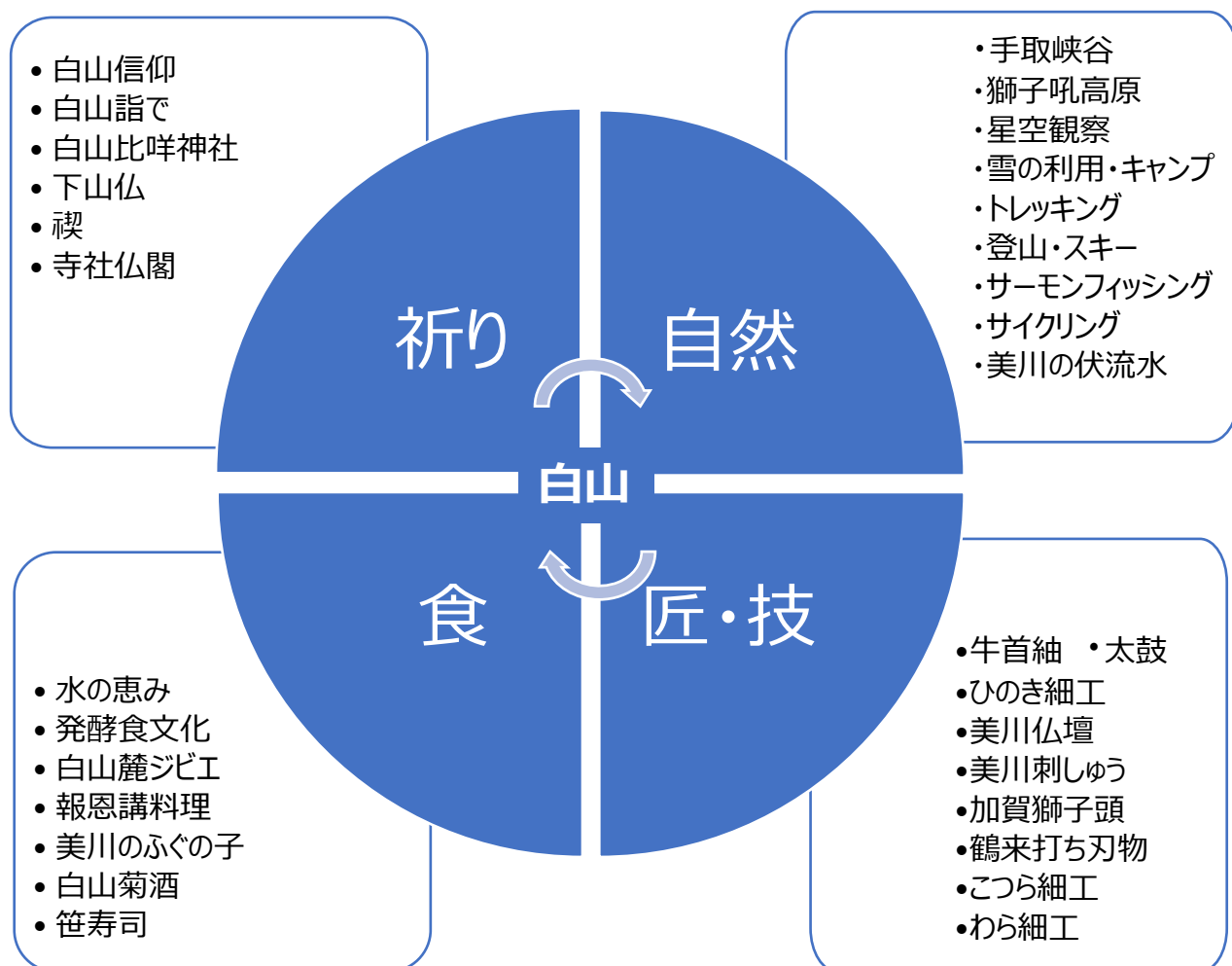


【資源の再整理】

部会で白山市の資源を再整理し、分析を行ってきたテーマやコンテンツをカテゴライズすると下図のようになります。

「祈り」「自然」「食」「匠・技」、この分け方とキーワードは、アフターコロナの旅スタイルに、どれも合致するものだと考えられます。

「祈り」… 白山信仰を中心に据えつつ、ご縁や縁起かつぎ、パワースポットなども結びつける。
「自然」… キャンプやアウトドアはコロナ禍で見直され、アフターコロナも需要拡大が見込まれる。
「食」… …美味しさだけではなく、命を恵みとしていただく食育や発酵食文化は今の時代に合う。
「匠・技」… 次世代に継承すべき伝統工芸の価値や大切さを、観光に取り入れる。



【全体方針】

3年後の観光みらい像

新幹線の県内全線開業～敦賀延伸に伴い、その話題性の高まりから金沢開業時以来の北陸ブームが再来します。2015年から5年間にわたり続いた金沢開業効果で多くの方が石川県に訪れましたが、全線開業後は「二度目の金沢・三度目の北陸」という観光客比率が圧倒的に増えるものと予測できます。よって、金沢市内だけで旅行が完結しないように、旅行日程に白山市を組み入れるための手法を考えていくことが、この3年間のひとつのテーマとなります。

1 新たな観光様式

2年以上にわたって私たちを苦しめた新型コロナウイルス感染症もようやく収束。ただしすべてが元に戻ったわけではなく、コロナ禍での気づきや変えざるを得なかった生活様式の一部は、新たなライフスタイルとして収束後も定着すると考えられます。観光面においても新たなニーズが生まれ、私たちはそれに対応していく必要があります。

2 人との交流

これまでの欲張り型・駆け足型の物見遊山旅から、テーマ性重視や滞在型の旅スタイルにシフトしてきていることを感じます。長きにわたり人的接触が制限されてきたことにより、旅先における「人との交流」が旅の醍醐味と感じる人も増えてきました。その交流機会はこれまでの「体験」や「ガイドング」だけに留まらず、「働く」や「暮らす」といった旅のテーマの拡がりの中でも重要度が高まります。「人」こそ次期の大切な観光コンテンツです。

3 ファンづくりの機会と捉えたイベント開催

同じくコロナ禍で実践したことマイクロツーリズムの推進があります。過去から行われてきたマイクロツーリズムの手法としては、近隣の方々に足を運んでもらうための各種のイベント実施が挙げられます。イベントがその地を知ってもらう動機付けになるのは効果的と言えますが、イベントのためのイベントではないものも多くありました。今後は、県内客をリピートさせる、いわばファンづくりの機会としてのイベント開催を考えるべきです。

4 大阪・関西万博の開催

新幹線全線開業以外にも、3年後への期待は数多くあります。2025年大阪・関西万博開催は、直接的な来場者数以上に、旅機運の盛り上がり、インバウンドの復活、景気の高揚感など、観光全般にフォローウインドが吹き込みます。東京オリンピック・パラリンピックに続く世界規模のイベントをホスト開催することで、SDGsやダイバーシティといった考え方が、さらにクローズアップされていくことは間違いありません。

これらの与件からも白山市には多くのチャンスがめぐってきます。この中期計画策定にあたり、「誰に何を」を解き明かす議論を展開してきました。また「どのような旅を提供するか」という視点にも立ち、次の重点方針に基づいて取り組みをすすめます。

【重点方針】

1 ビジョン

- (1) 白山市が「誰もが安心して暮らし続けられる健康な地域」であり続けるために、「誰もが安心して訪れることができ、楽しむことができる地域」を目指します。
- (2) 「旅と消費者の多様性」にかんがみ、「個のニーズ」に応えられる地域づくりに取り組みます。
- (3) 再来訪意向（リピート志向）と、紹介意向（シェア志向）の向上を目指します。



ひのき細工体験



観光連盟登録ガイドによる案内



白山比咩神社みそぎ体験



スカイ獅子吼から望む手取川扇状地

【重点方針】

2 重点ツーリズム（旅スタイル）の推進

（１）スローツーリズムの継続推進

①スローツーリズムとは

予定を詰め込みすぎず、自分のペースで進める自由な旅行。効率やスピードではなく、質を重視し、自然環境や文化を守りながら、人々とふれあうことができる旅のスタイルです。

②メニュー拡充とエリア拡大

石川県のサポートを受けながら取り組んできた白山ろくエリアを中心とするスローツーリズムの活動を継承しつつ、エリアの拡大とメニューの拡充に努め、ブラッシュアップを図ります。

③既存団体との連携

白山ろくスローツーリズム研究会をはじめ、滞在型観光の推進に取り組んでいる団体と連携して事業を進めます。

（２）ワーケーション＆ブレジャーの新規推進

①ワーケーション、ブレジャーとは

「働き方改革」の一環として話題となっている「ワーケーション」は、仕事（ワーク）と休暇（バケーション）を融合させるもので、環境の良い場所で滞在中に仕事をするという旅スタイルです。

一方で、仕事をするために地方に滞在し休日に観光をする、という旅スタイルもあり、これを「ブレジャー」と称します。

②受入環境の整備と情報の発信

ワーキングスペースやミーティングスペースを確保し、Wi-Fi環境を整備するなど、ワーケーションに適した地域に仕立てます。

また、宿泊施設などの観光事業者、白山市観光連盟（DMO）、行政が一体となって情報発信、プロモーションを展開します。

【重点方針】

2 重点ツーリズム（旅スタイル）の推進

（３）ユニバーサルツーリズムの調査研究

①ユニバーサルツーリズムとは

年齢や国籍、障害の有無を問わず、全ての人々が安心して楽しめる旅行を目指すツーリズムの考え方です。

②取り組む意義

日本では、障害者人口が増加し、高齢化が進むなど、ユニバーサルツーリズムを必要とする人々の数は年々増えています。また、持続可能な社会の実現を目指すSDGsの観点からも、いち早くこれに取り組むことは、白山市のイメージアップと認知度の向上につながります。

③調査と価値観の醸成

ハンディキャッパーが期待するものと白山市の実情を調査し、「新たなあたりまえ」をつくる価値観を地域一帯で醸成します。

（４）広域観光の推進

近隣自治体と連携した観光プラン、周遊ルートの作成など、広域観光の旅行商品の開発と、北陸新幹線の延伸に向けた広域的な誘客の推進を図ります。

（５）産業観光への取り組み

白山総合車両所等を活用した「ものづくりの心」にふれ、学び、体験する「産業観光」に取り組みます。

【重点方針】

3 実施事項

2の重点ツーリズムを推進するために、次の（１）～（４）について取り組みます。

（１）観光コンテンツの拡充

- ①テーマ別・エリア別・マーケット別での新規コンテンツ開発
- ②現状のコンテンツ検証と魅力拡大に向けた見直しと磨き上げ

（２）重点ターゲットの設定

- ①石川県内のファミリー層・シニア層
現状、白山市に最も多く訪れている層、この人たちの観光消費額を増やす工夫が必要。
- ②石川県外の女子旅層・インタレスト層
旅のトレンドセッターとしての力を持つ層、この人たちの発信によって来訪者の増加が望めます。

（３）受入体制整備の取り組み

- ①観光基盤整備（ハード・ソフト）
- ②DMOとして、多様かつ安定的な財源の確保
- ③ガイドや観光事業者のホスピタリティアップ施策
- ④観光リーダーの育成と観光プロデューサーの確保

（４）プロモーション手法の見直し

- ①一過性からの脱却＝継続性重視の発信方法にシフト
- ②一方通行からの脱却＝効果測定が可能なSNSツールの活用
- ③一人称目線からの脱却＝来訪者からの発信が効果的



【計画目標】

3年後の計画目標

1. 再来訪意向（リピート志向）・・・ 60%以上
2. 紹介意向（シェア志向）・・・・ 50%以上
3. 観光コンテンツ開発・・・・・・・・合計30件

【行動指針】

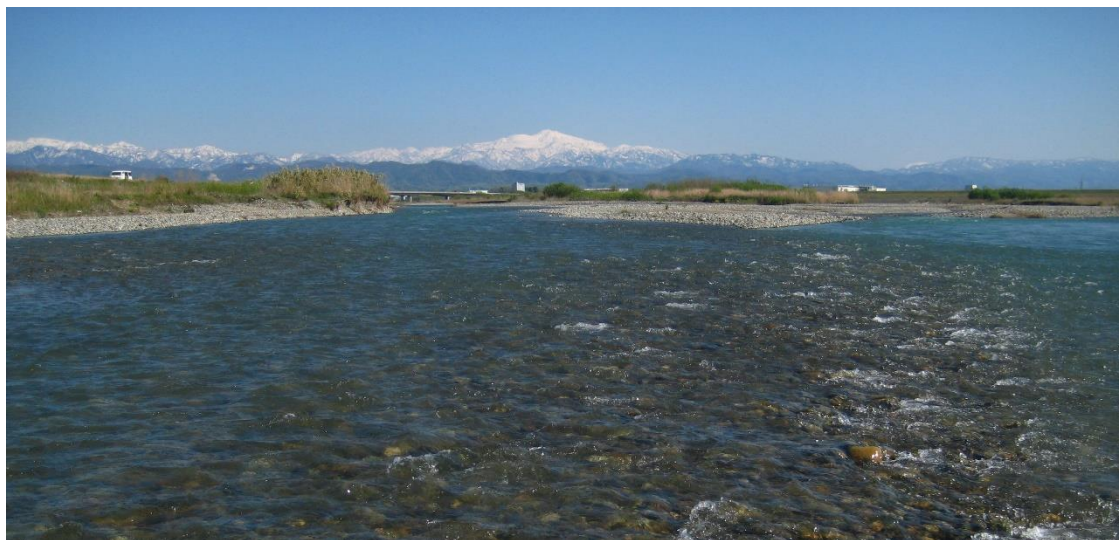
この計画書に基づいて白山市の観光みらいプロジェクトを具現化していくために、次のことを行います。

1 アクションプランの作成

- ①計画を実現させるために必要な具体的な作業項目を挙げ、「いつ」「誰が」「何を」行うかを検討します。
- ②3年間の中期スケジュールを作成します。

2 アクションプランに基づく戦略実行

- ①アクションプランのスケジュールに沿って行動します。
- ②定期的に進捗を確認し、PDCAサイクルで補完し、細部の見直しや修正を行いながら、計画の具現化へアプローチします。



手取川河口から望む白山